

◇あとがき◇

ふとしたことから野鳥の観察に興味が出て、都内でどのような野鳥がみられるかを調べている。スズメ、カラス、ハトは皆さんもよくご存じの種であろう。他にも、ツバメは季節の鳥として目にかかる機会が多い。ヒヨドリ、ムクドリ、メジロ、オナガ、ワカケホンセイインコ、シジュウカラ、エナガ、コゲラなど多くの野鳥が都内でも観察できることがわかった。さらに、自宅のそばの石神井川では、カモ、カワウ、サギ、セキレイなどもみられ、意外なことにカワセミも生息している。都会は野鳥にとって住みにくい場所という先入観がある人が多いと思うが、実はある種の鳥にとっては営巣・繁殖可能な場所であることがわかる。長年野鳥の観察をしてきた唐沢孝一先生によると、最近ではハヤブサなどの猛禽類も都会に住むようになっていくという（参考：都会の鳥の生態学、中公新書）。人が出す食べ残しなどの餌が多いという環境だけでなく、超高層ビルの上にも営巣する鳥がいるということを知り、野鳥の生きる知恵に大いに驚いた。私の実家のそばのかなり高い送電塔の上では、何千というツバメが夕刻に集まり、近くのねぐらである葦原へ群れで飛び立つ姿が観察できる。近くの公園ではムクドリの群れがセミを追いかけて捕食している姿も観察できた。人類は自然を破壊しながら地上に生息地を営巣してきたが、それに負けない多くの鳥が人類の巣の近くに共存している。地球の温暖化はすでに沸騰化のレベルになっている、との警鐘が先日国連事務総長から出されたが、このままでは人類だけでなく多くの生命体が地上から消滅する可能性がある。今こそわれわれも便利さのみを追求する文明という魔物に取りつかれていることを自覚し、地球上の多くの生物が共存して生きていけるように方向転換することを迫られているのではないだろうか。

さて、今月号は小児精巣疾患の特集である。種の保存に関わる大事な臓器についての知識を深めていただければ幸いである。お忙しいなか貴重な原稿をお寄せくださった先生方にこの場を借りて御礼申し上げる。

（金森 豊）

本誌広告取扱い

文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1

本郷宮田ビル 5 階

TEL 03-3814-8541 (代) FAX 03-3816-0415

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上巻権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は（株）東京医科学社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に一般社団法人出版者著作権管理機構（TEL 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

「小児外科」第 55 巻第 10 号（2023 年 10 月号）

特集 喉頭・気管病変 治療の工夫と予後

喉頭軟弱症の治療アルゴリズム	紫野正人
喉頭軟弱症の外科治療と長期予後	山本修子
先天性上気道閉塞症候群（CHAOS）の診断と対応	金森豊
安全な気管切開の方法と管理	杉山庸一郎
小児気管切開術の合併症とその対応	有本友季子
喉頭気管分離術 術式の選択	岡崎鈴代
皮弁形成による喉頭気管分離術の利点	矢本真也
顕微鏡下喉頭手術（ラリngoマイクロサージャリー）	福本弘二
声門下嚢胞の治療アルゴリズム	大西峻
声門下腔狭窄症に対する partial cricotracheal resection (PCTR) 手術と長期予後	津川二郎
声門下腔狭窄に対する肋軟骨移植術と長期予後	古田繁行
声門下腔狭窄に対する耳鼻科的アプローチ	守本倫子
気管軟化症に対する治療アルゴリズム	畠山理
気管外ステント術の現状とその適応	新開真人
大動脈つり上げ術の現状とその適応	花木祥二
先天性気管狭窄症に対する治療アルゴリズム	小野滋
声門下腔狭窄症に対する内視鏡治療	辻恵未
気道狭窄に対するステント留置の現状	宮原聡
先天性気管狭窄に対する slide tracheoplasty 術式の工夫	森田圭一
先天性気管狭窄に対する slide tracheoplasty 術後トラブル	下高原昭廣
先天性心疾患に合併する気管狭窄に対する治療アルゴリズム	下島直樹
先天性気管狭窄に対する slide tracheoplasty 長期予後	中谷太一
気管無形成 最近の治療と予後	奥山宏臣
再生医療による気道再建のその後	古村真

名誉編集委員

秋山 洋 石原通臣 岩中 督
大沼直躬 大谷俊樹 角田昭夫
土岐 彰 長島金二 橋都浩平

編集委員

山崎洋次 横森欣司
黒田達夫 浮山越史 金森 豊
北川博昭 越永従道 世川 修
渡井 有

小児外科

第 55 巻第 9 号

©2023 年 9 月 25 日発行

定価 3,190 円（本体 2,900 円＋税 10%）

編集 小児外科編集委員会

発行 株式会社 東京医科学社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-40-5

URL <https://www.tokyo-igakusha.co.jp>

編集部 TEL 03-3237-9112 (直) FAX 03-3237-9115

e-mail: shoge@tokyo-igakusha.co.jp

販売部 TEL 03-3265-3551 (代) FAX 03-3265-2750

e-mail: hanbai@tokyo-igakusha.co.jp

2023 年前金予約購読料 1 年分 49,280 円（本体 44,800 円＋税 10%）

（小児内科・小児外科 合同増刊号を含む）

*送料は前金予約購読の方のみ弊社負担です